

わくわく

出かけよう！

油田歴史ウォーク

START

油田
駅

三郎丸



三郎丸

旧桜井家住宅「麦秋苑」

前門や塀、母屋などに伝統的家屋を残したままの姿で、現在は市の多世代交流施設として利用されています。



©砺波市



©砺波市

大正蔵・昭和蔵・三郎丸蒸留所

若鶴酒造敷地内に「大正蔵、昭和蔵松庫、三郎丸蒸留所（国登録文化財）」等が建ち並ぶ姿は酒造業らしい景観をなしています。



昔話巡りへGO!



次ページを見てね

堀内



堀内の肝煎役 芳里家住宅

芳里家住宅は、砺波平野に広がる散村（散居村）に見られる、典型的なアズマダチの住宅です。主屋、土蔵、長屋門の3件が国の登録文化財に登録されました。

あなたの知らない！？あぶらでん歴史散歩

油田に残る昔話や文化財にふれることで、地域の歴史や文化を再発見！！

さあ！家族いっしょに「わくわくあぶらでん歴史ウォーク」に出かけましょう！

「QRコード」を読み取ると、
詳しい説明や地図が見られます！

油田を
歩こう！



お問い合わせ先 0763-32-6420

発行：油田公民館

昔話ゆかりの地を巡ろう



安藤家の地ぞうさま(宮丸)

「宮丸の安藤さま」といえば、代々、*十村役(とむらやく)をして、五十ちかくの村をおさめた、古い大きな家でした。その田からは、毎年米が千五百俵あまりもとれたといわれています。

その七代次郎左衛門さんの*下男(げなん)が、お祭りのごちそうを親戚へ届けました。そのお礼として相当のお金をいただいたそうです。

安藤家のある道筋は昼でもうす暗く、熊が出る非常に恐ろしいところでした。下男はそのお金で、美しい地蔵さまを買い求め、そこに安置したところ熊が出なくなったそうです。

安藤家は百年以上前に田も畑もやしきもなくなりました。ただ、この地ぞうさまと「安藤家の多門」は、今も残っています。

* 十村役(とむらやく) 村をいくつかまとめて、おさめる役

* 下男(げなん) 使用人



安藤家の地ぞうさま (宮丸)



安藤家の多門 (木下)



うしろにたった とりい(千代)

むかし、千代の宮の前で、わか者が死んでいました。ふしぎなことに、宮のとりいもたおれていました。

村人は、さっそく、わか者をかたづけ、とりいをたてなおしました。ところが、そのとりいは、なん度たてても、すぐたおれるので、あきらめて帰りました。するとその夜、ゆめの中に神さまがあらわれて「千代の方に向けて(宮のうしろがわに)とりいをたててください。」とおっしゃいました。次の日、村人は、神さまのおつげのとおり、宮のうしろにとりいをたてますと、りっぱにたちました。

今も、千代の宮のとりいは、うしろにたっています。

実際に神社内を歩いてみました(動画)



鳥居が後ろにある氣多神社(千代)



はりつけ田(十年明)

むかし、とのさまが、この村へ見まわりに来ました。道ばたに、うずくまっていた農民たちの中から、「おとのさま、おねがいです！」と言ってとびだした一人の男がいました。その男は、大声で、ねんぐが高く、農民がこまっていることをうたえしました。「ぶれいもの！」と言われ、すぐとらえられましたが、この男のおかげで、農民たちは、ねんぐをまけてもらい、とてもたすかりました。

でも、その男は竹やらいの中ではりつけにされました。そこは、明治のはじめまで荒れてて、村人が寄りつかないようでした。今では、りっぱな田になり「はりつけ田」とよばれなくなりました。

千人塚(千代)

千代の、三十アールもある大きい田の中に、直径十六メートル、高さ八メートルもある小山があります。千人塚とよばれるこの小山には、このあたりのたたかいで死んだ、千人ばかりのさむらいをうめてあるそうです。

今から百年ほど前、ここをひらいて田を作ったとき、人のほねがたくさん出ました。このほねをうめるために、あなをほったところ、毎日毎日、おけに一ぱいものへびがニョロニョロと出てきて、日にあたっては、すぐ死んでしまったそうです。



意外と知られていない

油田のおすすめスポットはここ！

中村

狛犬がない中村神明宮

多くの神社には**狛犬**がありますが、中村神明宮には狛犬がありません。神様が猿であるので狛犬を神社に入れると、けんかをされる(犬猿の仲)なので、狛犬はないと伝えられています。地区内でも犬はあまり飼われませんでした。



三郎丸
↓
小松市

明治の心を残す美しい洋館

明治時代、**野松医院**の建物として三郎丸地内に建築されました。和洋が美しく混ざる擬洋風建築で、何度か移築され、現在は小松市の日本自動車博物館に移築し、保存されています。一度は訪れたいところですね。



三郎丸

地球儀のある油田平和塔

昭和5年(1930年)に建てられ、高さは6mありました。

塔頂には鏝絵の名人・**竹内源造**作の直径1mの地球儀があり、日本列島と当時日本の植民地だった朝鮮半島・樺太が金色に塗られていました。



Q&A

🍀 油田(あぶらでん)という地名はどのようにしてついたのですか？

昔、このあたり一帯には、菜の花畑が広がり、人々はそのから採れる菜種油を明かり用の油(灯明油)として使っていました。それが地名の由来となりました。隣の戸出駅の「戸出」という地名も、昔は「灯油田(とうゆでん)」という地名だったのが、「とうゆでん」→「とゆで」→「といで」と変わって生じたのだそうです。



🍀 油田にはいつごろから集落がありましたか？

昭和37年にこの地から須恵器が発見されたことにより平安時代にはすでに集落があったことが分かります。鎌倉時代になると油田は油田条(村)と呼ばれ、土地開発を行なった有力農民が開墾地に自分の名を付けて呼びました。名主の屋敷跡を思わせる掘内という地名や、名田のなごりである十年明・三郎丸などの地名が残っています。





草相撲の力士碑を探そう！

明治から大正にかけて、横綱梅ヶ谷・太刀山など、越中出身の力士たちが大相撲で大活躍しました。砺波地方でも草相撲がさかんに行われ、村ごと地域ごとの対抗試合に多くの若者が村の名誉をかけて出場しました。その功績をたたえ力士の石碑が建てられました。油田では8つの力士碑が確認されています。

熊ヶ峯与三吉碑(石丸)

場所:JR 石丸第2踏切西



浦ヶ関久兵衛碑(石丸)

場所:石丸神明宮南



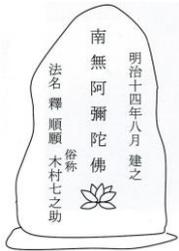
瀧ノ音清次郎碑(石丸)

場所:石丸神明宮南



木村七之助碑(三郎丸)

場所:個人宅内



「油田歴史ウォーク」で紹介した文化財や力士碑の場所は、下の QR コードを読み取って、Google マップで確認できます。



石ノ山兵藏碑(石丸)

場所:石丸神明宮南



島渡り久平碑(三郎丸)

場所:個人宅内



宮の浦政次郎碑(宮丸)

場所:西方寺東



琴ヶ濱碑(十年明)

場所:神明社境内南

